

(1) 実施機関名：

東北大学災害科学国際研究所

(2) 研究課題（または観測項目）名：

（和文）東北地方を中心とする歴史災害の文献・絵図史料収集および地形復原による分析
（英文）Analysis of historical disasters through topographic reconstructions from historical documents and pictorial maps in the Northeast region.

(3) 関連の深い建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

- (1) 史料・考古・地形・地質データ等の収集と解析・統合
ア. 史料の収集・分析とデータベース化

(4) その他関連する建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

- (1) 史料・考古・地形・地質データ等の収集と解析・統合
ウ. 地形・地質データの収集・集成と文理融合による解釈

(5) 令和5年度までの関連する研究成果（または観測実績）の概要：

「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」においては、「東北地方における地震・津波・火山情報に関する歴史資料の所在調査とデータ収集」として、東北地方各地の地震・火山について記述した歴史資料について調査と災害情報の収集を実施し、従来把握されていた災害史料の再検討や新情報の抽出・分析をおこなった。また、「歴史地形の復元・可視化手法の確立と災害発生要因の分析」として、旧版地形図や明治期の地籍図や地引絵図、江戸時代の村絵図などを用いて、古絵図・古地図からの歴史地形の復元手法を確立するとともに、復元した歴史地形の分析から、現在の災害発生要因に歴史地形の変化が影響していることを解明した。これらの研究成果の一環として、1611年慶長奥州地震津波に対する歴史学・考古学・地質学・津波工学などの研究者による文理融合シンポジウムを開催した。

(6) 本課題の5か年の到達目標：

「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第3次）」では、東北地方全域をフィールドとして地震・津波・火山に関係する文献・絵図といった歴史資料について、博物館・図書館に収蔵される史料のほか、民間所在史料についても調査・整理を実施しながら調査・分析を進める。これにあたり、新出史料はもちろん、従来の研究で分析対象となった史料についても、史料の全体情報や該当する文書群全体の周辺情報を含めて史料情報を収集する。また歴史地形の復元については、旧版地形図をベースとしながら、各地に存在する大判の地籍図・村絵図なども調査対象として、超高精細スキャンなどを活用しながら情報を収集することにする。これらの方法で収集した情報を整理・分析し、千島海溝・日本海溝沿いにおける歴史地震・津波および日本海沿岸の歴史地震・津波に関する新たな視角からの分析を実施する。

(7) 本課題の5か年計画の概要：

本課題においては、東北地方各地で年次ごとにフィールドを設定し、対象地域の博物館・図書館の所蔵史料を手がかりとして現地調査を実施し、文献史料・絵図史料の情報を収集するとともに、各地の代表的な地震・津波・火山などの歴史災害について研究分析を実施する。

令和6年度は宮城県を中心に史料情報を収集し、1611年慶長奥州地震津波や1793年寛政地震津波などについての分析をおこなう。

令和7年度は岩手県を中心に史料情報を収集し、1677年延宝八戸沖地震や1896年明治三陸地震などの分析をおこなう。

令和8年度は福島県を中心に史料情報を収集し、1677年延宝房総沖地震などの分析をおこなう。

令和9年度は秋田県・山形県を中心に史料情報を収集し、1804年象潟地震などの分析をおこなう。

令和10年度は青森県を中心に史料情報を収集し、1793年寛政西津軽地震などを分析するとともに、五か年の研究成果を総括し、シンポジウムあるいは報告書等で成果の社会還元をおこなう。

(8) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

蝦名裕一（東北大学災害科学国際研究所）

他機関との共同研究の有無：無

(9) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：東北大学災害科学国際研究所

電話：

e-mail：

URL：https://irides.tohoku.ac.jp/organization/ebina_yuichi.html

(10) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：蝦名裕一

所属：東北大学災害科学国際研究所